

## エレベーター (EV) のイライラ

国立国際医療研究センター

玉木 毅

昨年当院の配膳用 EV が突如故障した。配膳時間外にベッドやストレッチャーを搬送するルートが一つ失われ、さらに配膳時には職員用の1基が配膳専用になり、職員は「なかなか来ない」・「来ても満員」状態になった。制御基盤の故障とかで当初は修理まで数カ月と言われ、矢の催促でやっと修理されたが、それでも2カ月弱大変な思いをした。故障したEVは続々と死亡事故を起こした「○ンドラー」のようなバツもんでなく、2010年竣工で決して「老朽化」というほど経年しておらず、つくづく最近の機器の耐久性の悪さを感じる。EVに限らず、例えば最近同じ建物の手術室の機器が次々と故障する。ふと「○ニータイマー」(某社製品には、一定期間経るとわざと故障させるタイマーが仕込まれている噂があった)という言葉が頭をよぎった。

そうでなくてもEV待ちには、イライラが付き物である。某番組によると同じ1分でも、信号待ちの1分は平均57秒に、EV待ちの1分は平均1分24秒に感じるとのことである。理由に、「視覚情報が少ない」・「待ち時間が不明」・「期待を裏切る」などがあげられていた。確かに信号待ちなら、風景や通行人・車両を眺めることで気がまぎれ、待ち時間もほぼ推測できる(どれくらいで変わるか表示する信号もある)。一方EV待ちには狭いホールで眺めるものもなく、他階で長々と停まっても事情がわからず、「通過」・「来ても満員」などの理不尽にしばしば遭遇する。信号が他人の都合ですっと赤だったり、理不尽に赤になったり、青になったのに横

断出来なかったりといったことはない。

階数表示のないEVもイライラの元である。一応「システム上待ち人がいても通過したり折り返したりするので、『あえて知らせない』」という理由らしいが、本当だろうか？出来の悪い制御アルゴリズムがバレないように、隠蔽しているのでは？各基の位置がきちんと表示されていれば、「来そうにないから階段で」などの判断も可能なのに、隠蔽だけでは、アルゴリズムも進歩しないのではないか？

病院EVには、もう一つ特有の要因がある。オフィスなら基本乗るのは「ヒト」のみだが、病院EVにはそれ以外に、車椅子・ストレッチャー・薬剤カート・ポータブルX線・エコー等々、様々なものが乗ってくる。EVは満員を重量で判断するので、ヒトだけなら人数に応じて重量も増え適切に満員を判断して、通過させるなどの対策が成される。しかし病院EVでは、重量に余裕があってもスペース的に乗れない「満員」がしばしば発生する。そうすると「やっと来たのに『満員』」→「他の基は次々と通過」という悲劇に。病院EVには重量だけでなく、3Dスキャナーなどでホールの待ち人数や基の「空間的満員」を検知する技術が必要ではないか？せめて、ホールの待ち人数に応じて「2台配車」というボタンや、「空間的満員」の基内からマニュアルで「満員」表示するボタンなどはどうか？

このように素人が考えただけでも色々策はありそうなのに、悲劇は放置されたままである。結局EVの仕組みは利用者ではなく、業者自身や直接の顧客である設置者の論理に立ったものではないか。背景に「民(利用者)をして、依らしむべし。知らしむべからず」という昔のお役人的な発想があるかも？要は、「おめーらは余計な事考えずに、黙って待ってりゃいいんだ」ってことである。EV会社にお役人の天下りが多いかどうかは知らないが…

大袈裟に言えば、こういう「説明」・「情報公開」をきちんとしない病院のICは大丈夫かと思う患者さんもいるのではないか？病院機能評価は、次のバージョンでこういう点もチェックしてくれないものだろうか。